

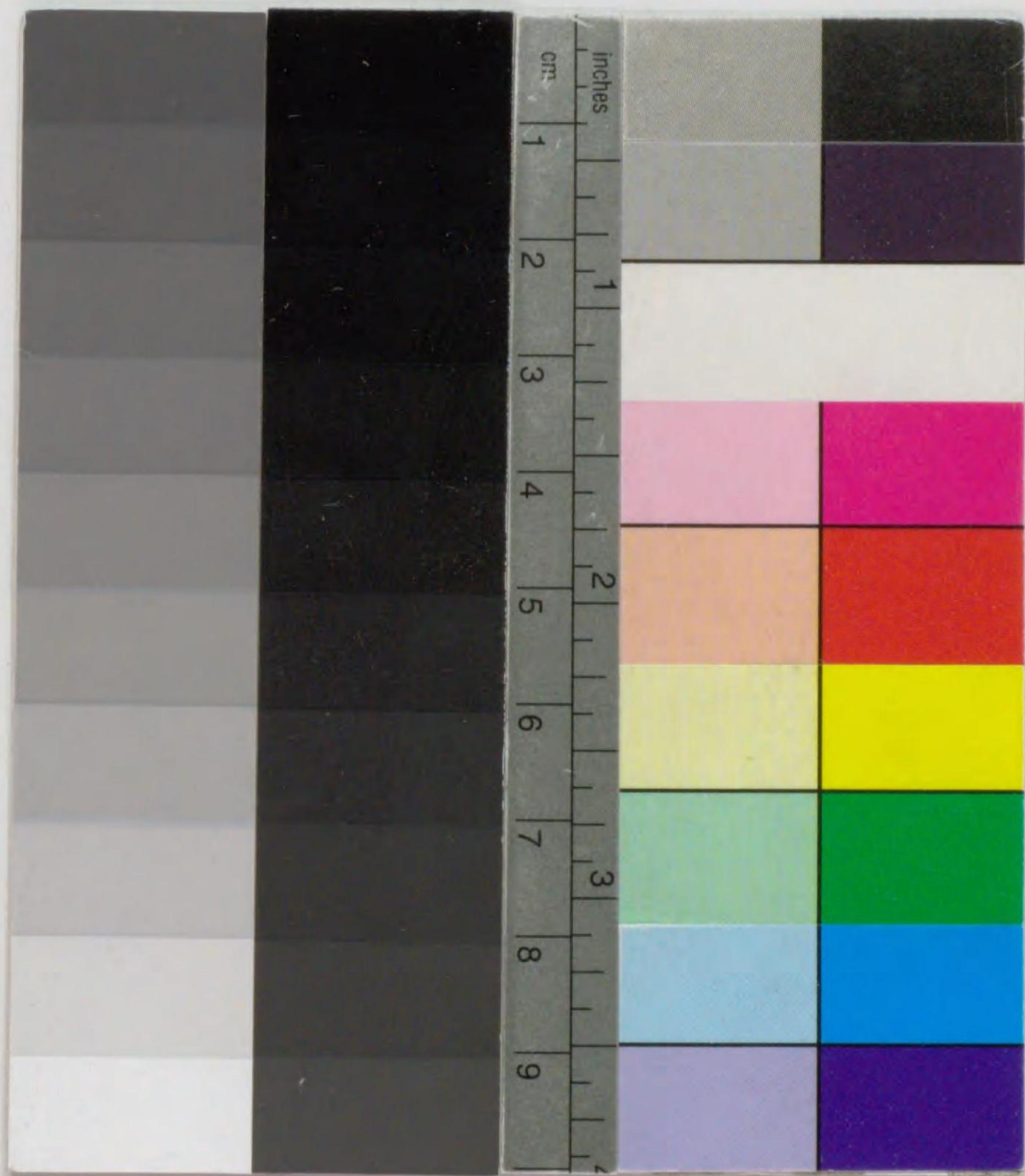
鶴駕西巡紀要

186
353

186-353



1200800014499



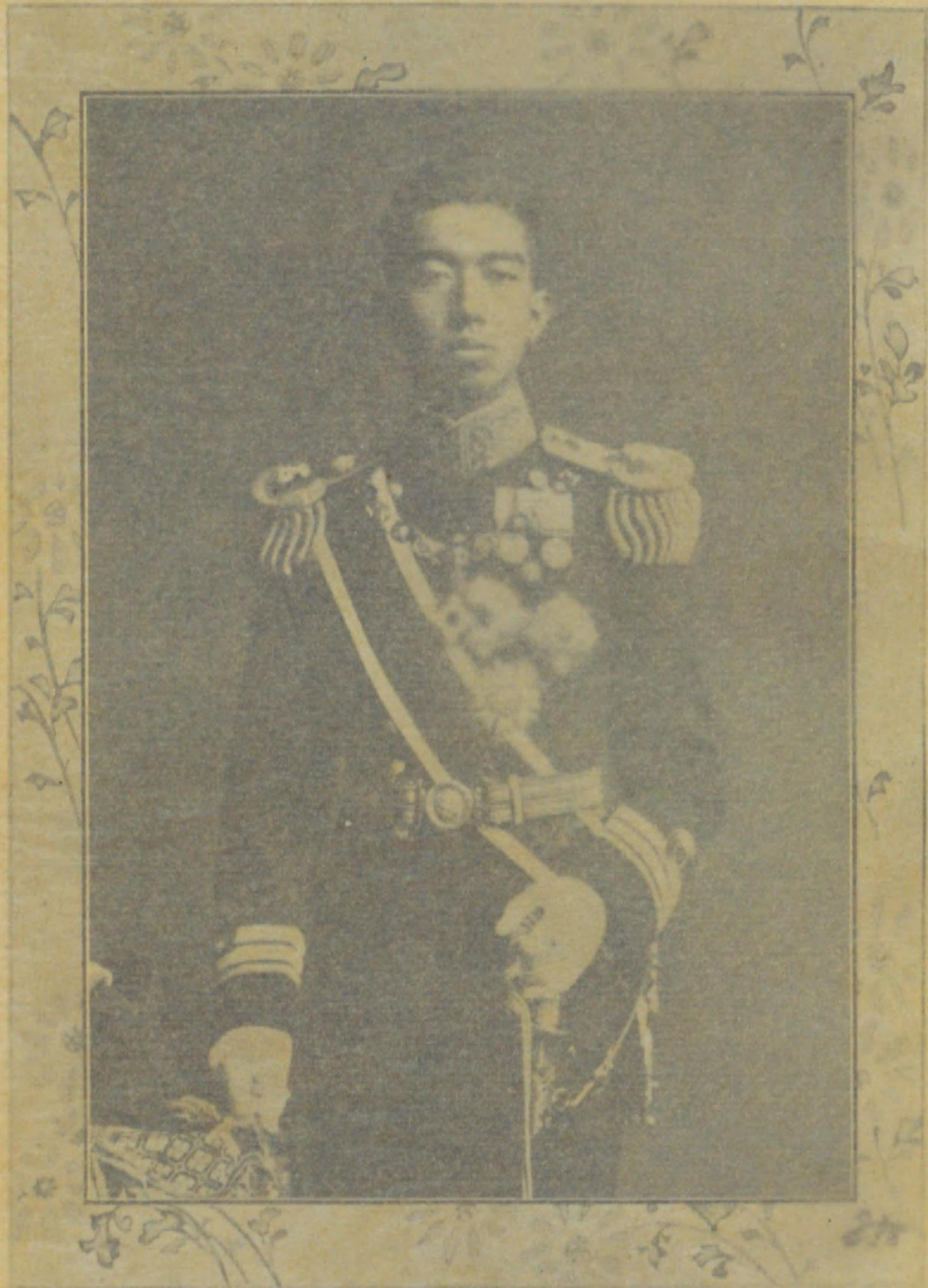
鶴駕西巡紀要

186-353



鶴
駕西巡紀要





下殿王親仁裕子太皇





下殿王親仁裕子太皇

東宮の御州御遊遊乃御
御事一々多御事申に

東宮御遊長為

於原御孫子か

この旗風

御事一々多御事

於原御孫子か

緒言

此の一冊子は 東宮殿下歐洲御巡遊中 殿下に供奉して、常に御側近を離れざりし海軍大佐山本信次郎氏が、昨年十月七日日本會の需に應じて講演せられたるもの、速記録を、特に單行本として發行せるものに係る。此の速記録は之を二三回に分ち、會誌『有終』中に掲げんとする意嚮にて、講演者にもその旨を通じ置きたりしが、講演を聽聞せる會員中 殿下の御高德を伺ひ奉るべき此の有益なる講演録を普通講演の如く雜誌中に分載するは、何となく物足らぬ感あるのみならず、通讀に不便なり、須らく別に印刷して配布すべしと提言せらるゝ向多く、仍て之

を別刷となすこと、せり。然れども單に雑誌の附録とするは、内容の性質上多少本書の威嚴を傷くるの感なきにあらず、又それ文本會の負擔を増すこと、なるを以て、要望者に些少の醜出を仰ぎ、全然獨立のものとして發行するの可なるを認め、講演者山本大佐の同意を得て、爰に本書を編出するに至れる次第なり。山本大佐が這般の講演を爲すに適任者なりしは、衆口悉く相一致するところにして、然る所以に就き今更之を呶々するを須ひず。その 殿下に奉侍して、到る處微細の點に迄環境の遷移に意を注げる大佐犀利の觀察眼は、映じて皆本書の裡に收められ、以て本書の聲價をして幾層の高きを做さしむべきを覺ゆ。此の書洵に眇たる一小冊子に過ぎずと雖も、御出發より御歸朝

に至る半歳間の主なる御巡遊中の事蹟は、一誦の中に之を窺ふに足るべく、その要領を知得する上に於て些の遺憾なきを認む。是れ山本大佐が其の講演に於て、話題の選擇その宜しきを得たることを證明するものにして、吾人は大佐の此の措置に推服すると同時に、吾人をして本書の刊行により、獨り會員間のみならず、事に與らざる部内多數の人々が、御巡遊中の事蹟を知らんとするの欲望を満足せしむるに至れる大佐の厚意を感謝するものなり。爰に聊か本書發行の來歴を叙し、以て繙者の參考に供ふと云爾。

大正十一年一月

有終會長 吉松茂太郎 誌

序

恭しく惟ふに客歳

皇太子殿下の歐洲御巡遊は蓋し未曾有の御壯舉にして邦家の一大盛事たり而して第三艦隊の香取鹿島が此行御召艦及供奉艦の任務を荷へることは獨り本艦の光榮なるのみならず我海史上特筆す可きことなりとす今當時に於ける航海の状況を回顧するに横濱發途より歸着に至るまで全航程二萬三千三百浬其間或は熱帶地方に或は風力波濤強大なる信風季の印度洋に或は時としては狂暴なる颱風の發生する季節に於て臺灣及本州海面に或は狹隘なる蘇士運河に或は往々浮流水雷ある英佛海峽に過ぎりしが

航海常に順當にして寄港地の着發亦豫定の如く何等遲延故障なく其の他各般の事圓滿に進行し以て此任務を全ふすることを得たるは實に

大御稜威に由るものところ申すも畏しとする所殊に艦内に於ける御室其他の設備に就ては最善を盡せしも尙ほ完全なるを得ず且艦内狹隘にして長時日の御用としては恐懼に堪へざるもの多きに拘らず 殿下には終始御機嫌麗しく酷熱中も御元氣に渡らせられ又屢々優渥なる思召を傳へさせ給へることは一同の感激措く能はざる所にして艦隊の士氣亦振興せるを感銘せり

今茲に有終會は 殿下御巡遊中の御消息に關し海軍大佐山本信次郎氏の謹話せるものを冊子として之を刊行せむとし予が當時

第三艦隊司令長官として跟隨の榮に浴せるの緣故を以て予の文を徵せらる予謂へらく山本大佐は夙に軍事最高の學府を卒へ兼て英佛伊の國語に堪能なるのみならず帝國使館附武官として羅馬に駐在し又巴里會議に際し簡派せらるる等頗る歐洲の事情に通曉し東宮職御用掛より引續きて這次供奉員たり御巡遊中常に側近に奉侍するの機會最も多かりしを以て其御消息を傳ふるに於て遺憾なからむ乎庶幾くは此講話を通じて吾人が新たなる印象を得據て以て世道人心に裨補する所多大なるものあらんことを乃ち敢て揣らず感想を敘して有終會に對ふと云爾

大正十一年一月

海軍中將 小栗孝三郎 敬誌

鶴駕西巡紀要

海軍大佐 山本信次郎述

謹て 東宮殿下歐洲御外遊に就て申し上げます。私の平素最も尊敬致して居ます先輩諸閣下竝に諸君に向つて此の光榮を擔ひました事は、私の非常に欣幸とする所であります。

殿下が三月三日に東京を御立ちになりまして、九月三日に東京に御歸りになりました迄、海外で御費しになつた日數が總て百八十四日、其中御航海が八十一日、御碇泊が三十七日、陸上に御在てになつたのが六十六日であります。御航海中は御多忙でもありませんでしたが、陸上に御上りになられましたからは、午前六時には既に御出ましになつて、午前中は御見學やら或は御訪問等の御務を遊ばし、午餐の節は無論外

國の著名の人々が御陪食を仰付かり、午後は午前同様色々な御務がございました、御晚餐の前僅に十五分か二十分間に御服を御更へ遊ばし、又御晚餐の後は夜會等がありまして、時には十一時にも十二時過迄も御務めになつたやうな事が屢々御座いました。斯やうな有様ですから、殿下の遊ばされました事に就きましては、申上げる材料も非常に多いのであります。殊に既に新聞其の他の通信に依つて、大體は御承知でありませうし、又自分も屢々講演を致しまして、其の速記の一部が新聞に出ても居りますから、本日は最も興味を惹くやうな事柄丈け申上げたいと思ひます。

百八十四日の御巡遊中、殿下は到る所に於て、又何時でも非常な御成功を御收め遊ばしたのであります。申す迄もなく、御訪問遊ばした國の如何を問はず、又御出でになつた何處を問はず、更に階級の如何を問はず、何れの方面からも非常なる歓迎を受けになつて、外國の皇族でも他國に行つて、是丈け成功した事はなからうと思はれる程であらせられたのであります。而して皇室の御待遇或は其の國の政府の御歡迎に

就ては申す迄もなく、時には勞働者の代表者迄も出まして、殿下に花束を捧げる等の事がございました。それで日本の皇室は、彼の幸徳秋水事件より、歐羅巴の社會主義者或は勞働者より反對せられ、睨まれて、兎角皇室に對して種々の事を申すのであります。が、それにも拘らず 殿下の御行動に就きましては、無論是は 殿下の御英明の資に依る事ではございますが、全く何事もなかつたのであります。或英國の新教の雜誌に、今度英國に御出でになつた 皇太子殿下は偽物であつて、本物は日本に隠してあると云ふ事がありました。が、彼等は日本の皇室は一體どう云ふものであるか、皇族は普通吾々と同じ人間であるであらうか位に考へて居つたのであります。それが殿下が何人とても御話になり、又御歩きになられるので、實は驚いたと云ふ風であります。それ以外に於て外國の新聞雜誌に、批評がましい、非難がましい事の出たのは一つも見受けませぬ。つい二三日前も佛蘭西人が、自分等の見た新聞雜誌には、殿下の惡口を書いて居らない。君に正直な事を言つて貰ひたいが、殿下に入る朝の

たかと尋ねられました。が、實際さうであつたのであります。従つて誤解をいまして、御した日本の眞の事情を明かにする事が出来ましたし、又皇室に對する各國の疑を解き日本の將來の爲めに非常なる御功績があつたのであります。今回 陛下より頸飾章を御賜はりになつたのも、全く其の意味に依る事と、吾々は深く感激して居る次第であります。

殿下の御健康に就きましては、日本を御立ち遊ばした時よりも、御歸り遊ばした時の方が御血色も好く、是は或は私の考が違つて居るか知れませぬが、日本を御立ち遊ばして間もなき迄は、何か面白い事を申上げて御笑ひになつても、何となく陰氣な淋しい御笑方でありましたが、御歸り頃になりましては、御心の底から面白さうに愉快に御笑ひ遊ばすやうになられました。それだけでも御健康上御利益になつた事と拜察致したのであります。又事實に於て此の御旅行中、正直な事を申し上げますと、五六回は御不快の事もあらせられました。それとて大して御寢み遊ばす程の事もなく、

従つて一回も御日程を御變へ遊ばした事はありませんでした。此の點は供奉員として特に嬉しく感じたのであります。斯く非常に御元氣が好かつたので、御歸朝の途中の如きは、時に二三日間も甲板の溫度百度位の事が續きましたが、一向御かまひなく、猿股の上に廻マヘシを御締めになつて、供奉員達を御相手に相撲を遊ばしました。供奉員達も決して 殿下に負けては居りませぬ。御世辭に負けるやうな人は一人もなく、供奉員中西園寺氏の如きは體量二十貫もあつて、其の他の者と雖も殿下よりは確つかりした身體を有つて居ります。それ等を御相手として、殆ど四十回位相撲を御續けになりましたので、或醫者の如きは、餘り御無理を遊さぬやうにと御注意申上げたやうでありましたが、そんな事には少しも御頓着なく御續けになつて、甘露寺侍従の如きは、殿下の御頭が胸に當つて、一週間程胸が痛いと言つて居りました位で、實に 殿下は御元氣であられたのであります。又船の方はどうであつたかと申しますと、八十一日の御航海でございましたから、無論天氣の悪い時もありまして、マルタに入る朝の

如きは風力十と云ふやうな天候であり、又歸途ソコトラ附近に於ては、七八と云ふやうなモンsoonが五六日も續きましたが、それにも拘らず 殿下の御不快は三回位であつて、而も其の期間は非常に短く、吾々が候補生として遠洋航海を致しました時の事を考へますと、實際其の御強いのに驚きました。之は自分海軍將校として一層嬉しく感じました。尙海軍には非常に興味を御有ちになつて、第一に御服の如き迄、陸軍の御服よりも海軍の方が御好きでありました。英國の軍艦の如きさへ、新しい艦の名前を悉く御覺えになり、やれあれは何クラスで何噸でと云ふやうな事は、實に詳しく御存じてあります。曾て御學問所がございました頃、兵器の御稽古を遊ばしまして、實に御判断が良かつたといふ事を伺つて居りますが、吾々海軍將校としては、愉快に且つ有難く感じます。又之を皆さんに御傳へする事も、私の深く欣幸とする所であります。

殿下の御出發の前又御出發後、 殿下の御安危に就て色々な流言蜚語が放たれたのであります。無論中には誠心誠意 殿下の御身邊を御心配申上げて、申された人も澤

山ありましたが、中には随分爲めにする所があつて、行つたのもあつたと思はれます。而して此の風説は無論何等根據のあるものではありませぬが、是が如何に多くの御不便を 殿下に御與へ申したかと云ふと實に恐多い次第であります。例へば香港に御着きになると、總督が訪問を致しますから、殿下は公式に御答禮にならなければならぬのであります。所が朝鮮人が拳銃を持つて居ると云ふ事を此の邊でも言ひ、それが宮内大臣或は海軍大臣外務大臣に傳はつて、艦に向つて色々警戒に就ての指揮が來ますから、總督府は全く實際に於て何の材料もなく、實際危険があるとは思つて居りませぬが非常に狼狽し、又供奉員も心配して、遂に異式の答禮を遊ばしたのであります。自分等は海軍士官として、殊に日本人として遺憾に思ひますのは、國際儀禮として 殿下は公式に御答訪なされなければならぬのであります。所が總督と善く言へば妥協し、悪く言へば向ふに頼んで軍艦に來て貰つて、軍艦に於て御答禮になられたのであります。是は小さい問題の如くであります。更に倫敦や巴里に於て

も、色々御不都合をかけたのであります。殿下は何時も極く簡単に脊廣中折帽位で御出掛けにならうと遊ばしますが、大使公使等が非常に心配して、大公使館員や留學中の陸軍武官等を御隨從に加へようとしています。然し斯うなると殿下の御希望通り簡単な譯に参りませず、其の上行列の自動車の數も十臺以上となりますから、先方の國の人にも往來に非常な不便を與へるのです。日本でさへ長く電車を止めれば不平を言ふ者がありますのに、況や外國に於てをやであります。其の結果折角殿下は天真爛漫で、何も彼も簡単に遊ばされると云ふ極く評判の好い處を却つて壞す事になる。そこで吾々は大使館の人や陸軍の人と非常に争つた事もありました。今では供奉員は丸で殿下の御身邊に就ては心配しないで、暢氣だと言つて居る人もあると聽きました。が、決して暢氣處ではなく、或時の如き即ちブラッセルで殿下が宮廷に六日御宿泊になり、後二日はホテルに御宿泊になつたのであります。丁度宮廷を御退去になつた日に大使館で晚餐會を御開きになつたのであります。食堂が狭いので、私共大部

分は先きにホテルに行つたのであります。さうして食事をして居ると、隣の小さい卓子に日本人らしく見える人が二人來ました。處が其の二人が食事中一言も物を言はないので、何となく不安の念を感じました。聞質しても見ましたが要領を得ない。宿帳を調べると一人はケー・ヤナガワとあつたが、他の一人の名は認めてない。益々疑はしく覺えましたので、色々ボーイ長にも問ひたゞした結果其の寢室迄調べましたが、全く日本人らしいので、西園寺氏とも相談して其の二人の所に参り、失禮ですがあなたは何誰でございますか、實は今晚殿下が初めてホテルに御泊りになるので、多少警戒をして居るのですと申すと、それは大さう失禮を致しました、私共は誠に氣の付かない事をしました、實は私は大審院判事の柳川で、もう一人は司法省參事官の清水でございますと云ふ事なので、全く安心しましたが、斯の如くに僅な事にも注意をし、心配をしたのであります。尙又其の風説の爲め伊太利あたりでは、ネーブルスから羅馬迄の間、汽車で五時間もかゝる二百哩の沿道に五十歩一人づゝの兵を立たして、警

戒をしたのであります。是は先方が勝手にしたのだと言へばそれ迄であります。併し又思へば随分先方でも迷惑であつたらうと考へられます。それ故御歸途も 殿下はネーブルスを御立ちになつて以來、各地の官憲を煩はすのを遠慮する爲と、内地からの注意の電報の爲、一ヶ月以上の御航海をしかも非常に暑い紅海から印度洋上を御通過になりましたにも拘らず、遂にカムラン灣に至る迄の間只一回エデンに二時間程御上陸になつたばかりでありました。途中コロンボ、シンガポールあたりで御上陸を御望みになつたのは無論でありまして、是は吾々航海に慣れた海軍士官としても、御無理のない事であると御察し致しましたが、只詰らない風説のために、殿下も非常に御迷惑遊ばした次第で、吾々供奉員も實に恐懼致しました。

偕て三月三日に東京灣口を出まして、丁度葉山の沖合に參りました時、御用邸の西約三哩の地點より、殿下は兩陛下に對せられて最後の御敬禮を遊ばし、四日目に中城灣に入りました、思もかけず 殿下を御迎へした島民の歡喜と奉迎とは申す迄もなく

非常なものでありました。それより數日にして十日に香港に着きました。此處は前に申上げた通り、非常に危険のやうに言はれましたので、公式の御上陸はなかつたのであります。それ故十一日に小松侯爵を 殿下のやうにして、私が御供となり正面の棧橋から上陸して、總督府からは副官が来る、自動車が迎に來ると云ふ風に致しました。其の間に 殿下は海軍の棧橋から御上りになつて、吾々總督等の一行に御加はり遊ばして、香港の島を半周されました。香港は道路も立派にアスファルトで出來て居りますので、殿下も道路の好いのに全く御感心遊ばしたのであります。又市中を自動車で通りまして、英國人が殖民地を如何に經營して居るか、日本人が如何に發展して居るか、支那人はどう云ふ事をして居るかも御覽になつたのであります。又此處では特に居留民を召され、殿下にも御台臨になり、皆と共に餘興も御覽になり、立食も共に遊ばし、又居留民の重立つた人に拜謁を賜はつたのであります。御承知の通り日本に於きましては、十八歳以上でなければ拜謁が出來ないのであります。それさへ破格の

御待遇を遊ばしたのは、詰り海外の發展と云ふ事に御注意になる一つの證據であると拜察したのであります。又一日は小學生徒を召して香取の甲板上で拜謁を賜はり、日本から持つて行つた御菓子を賜はつて、生徒は非常な面目を施したのであります。其の時生徒は七十名程で、君ヶ代を合唱致しましたが、無邪氣な子供等が熱誠を込めた其の様子は實に何とも言はれない感に打たれたのであります。元來 殿下は少年や青年には非常にインテレストを御有ちになつて、英吉利に於てもボーイ・スカウトを二度御閲團遊ばし、此方に御歸りになつてからも、青年團に行啓遊ばしたのであります。

十三日に香港を御出港、十八日に新嘉坡に御着、此處でも香港に於けると同様の御行動で、御覽になつた所としては、彼地で有名な博物館、植物園、殊に日本人の經營して居ります護謨園では、護謨の栽培から採收迄御覽になり、更に新嘉坡市中を御一周遊ばし、日本人街をも特に御視察になりました。

二十二日に新嘉坡を御立ちになり、二十八日に古倫母に御着きになつたのであります。

すが、此處ではもう非公式に御上りになることは出来なかつたのであります。と云ふのは總督が英國 皇帝よりの電報を持つて來まして、英國 皇帝陛下より 皇太子殿下を是非公式に歓迎するやうにと申して來られたと云ふ事で、殿下も快くそれを御受けになつたのであります。元來 殿下今回の御巡遊の第一の目的は、御見學でありまして、序に従來親密なりし各國皇室と日本の皇室との關係を益々親密にすると云ふのが副目的であられたのであります。それ故皇太子旗を掲げて公式に御出でになる場所としては横濱からと、それからポーツマスに御出でになる時だけで、其の他は皇太子旗を掲げない事になつて居つたのであります。そこで古倫母では皇太子旗は掲げませんでした。さう云ふ狀況になつたので、全く公式の御行動を御執りにならなければなりません。而して此の以後は皆同様の形式であつたのであります。それで御上陸の時に皇禮砲を發射する事は御承知の通り、棧橋上には儀仗隊が堵列されました。且つ棧橋は全部印度製の絨毯を敷詰め、御通路は旗を以て美しく飾られ、總督自身も

奉迎に出ました。陸上には印度兵の儀仗隊も堵列して居りましたので、之を御閱兵遊ばされ、尙鹵簿に入ります騎兵をも御閱兵になりました。此の騎兵と申すのは義勇兵であります。元來英國は常備軍の少い所でありますから、錫蘭迄騎兵を配置する事が出来ませぬので、多くは戦争に出た人達、即ち砂糖園の主人とか、護謨園の經營者或は大きな商館の重役と云ふやうな人々が、何れも自慢の馬に乗つて出て來ましたが、それが約十三頭か居りました。各の御閱兵を終らせられてから總督と共に馬車に召され、其の官邸に御向ひ遊ばしたのであります。其の沿道もすつかり美しく飾付をして、其の後方には土人が充滿し、尙御通路に面した家では窓からばかりでなく、家根の上迄一杯になつて歓迎したのであります。處が餘り歡呼を致しますため、馬車の馬が暴れてどうしても止まらない、已むを得ず總督が萬歳を唱へる事を止めさしたと云ふ有様でありました。詰り餘り有難い事ではありませぬが、印度人は恰も日本人を自分達と同じ者のやうに思つて居るので、歡迎も一層であつたと考へられます。此の夜總督官

邸に於て公式の晚餐がありました。是に列席した者は六七十名、夜會には何百名か呼ばれました。何にしる外國の陸上で始めて斯う云ふ晚餐會に御出席になつた事でありますから、殿下の御務も御骨が折れた事と思ひます。其の翌日は總督夫妻の案内でキャンデーに御出でになり、一夜を總督の官邸に御過ごし遊ばしました。何と申してもさう廣くもありませんので、御供にも制限があり、部屋も狭く、殊に初めて外國人の家に御泊りになつたのでありますから、隨分御不便であつたと拜察したのであります。併し殿下には更に御構なく、何時も御愉快に遊ばして居られましたのは、非常に恐多く感じました。先づキャンデーに御着きになると、總督は御通行の道すがら、釋迦の齒があると云ふ寺に御案内申上げました。あの齒は本物を御覽になつたか知れませぬが、長さ一寸二三分もあります。歴史でも色々な評のある事を存じて居りますが、矢張り人間の齒ではないと思ひます。其處でも前の土人同様印度人の佛僧達は自分等と同じ様な人で、其の上にも佛教國の皇太子であると云ふので經文を唱

へ、又古い經本を御目に掛けて、熱心に 殿下を歓迎したのであります。尙夜に入りましてからは非常特別を以て、ペラヘラと云ふ行列を御覧に入れました。是は既に新聞で御承知でありませうが、此のペラヘラと申すのは象の行列であつて、年中行事の一つであります。それはどう云ふ事をするかと申しますと、土人が今申しました釋迦の齒を持出して金の箱に入れ、一匹の象の脊中に積んで、多くの象が行列をする所は、日本で花車を曳き、神輿を練るのと似て居ります。さうして象の周圍には、少きは四五人多きは十二三人の土人が居りまして、馬鹿嘶所でない、支那の芝居の音楽よりもつとやかましい、逆も聞いて居られない程の音楽で調子を取つて踊るのであつて、其の手足を動かす事の早いには驚くばかりであります。或英國の本にあれば悪魔が附いて居るとありましたが、どうしてあれだけ早く動くかと思はれる程の早さであります。又丁度其の時四十二組の象が出て來ましたが、それに附いた土人が三四百人、それを率ゐるのは昔の酋長で、それが原始的な着物を着て、さうしておかしいと云

ふか面白いと云ふか、大幅の金巾を三十何ヤードと云ふ程腹に捲いて居りましたが、是は非常に 殿下の御慰になつて、御愉快に一時間程を御過しになり、さうして終つてから、酋長等に何か賜はつたのであります。其の翌日はキャンデーの近くのペラデニヤの植物園、是はバタビヤの植物園に次ぐ大植物園であります。それを御覧になり、御立ちになる前更に總督を召して、艦上晚餐會を御開きになつたのであります。四月十日スエズに向け御出港、十五日御着になり、十六七の兩日スエズ運河を経てポートセツドに着きました。是が一番長い航海でありましたが、此の頃になりましたは艦内も漸く片付き、自然海上の御日課も決つて、朝は七時半に御部屋を御出になり、讀書或は御稽古がございました。又デツキゴルフとか、ゴルフの球の打方、テニスの球の打方等を遊ばし、又御暇の時には、供奉員、乗組將校、時に依ると下士官兵迄も御相手に遊ばして色々御話になり、遂には一番暑い時に機關室に行きたいと仰つしやつて、印度洋でソコトラに掛ります前に機關室に御入りになりました。其の時は閑院

宮殿下も御同伴で、作業服を召されましたが、乗員は非常に感激したのであります。

十七日ポートセツドに御着後、十八日にはカイロに御出でになりました。目下の埃及の状況は、丁度朝鮮の或時代と同じで、英國から統監が行つて居りますが、埃及王も相當權力を有つて居ります。そこでカイロに着きました時もポートセツドに着いた時も、御使が兩方から來ました。殊にカイロの停車場の中には英國の駐屯軍の儀仗隊が居つて、アレンビー元帥が先導して、殿下が其の儀仗隊を閲兵され、構外に出ると埃及の儀仗隊が居る、之を亦閲兵すると云ふ變つた事もありました。總督官邸に暫時御休息の後直にピラミッド、スフィンクスを御覽になつたのでありますが、偶々二十年來曾てないといふ砂漠の嵐が起りまして、砂が激しく飛んで來ます爲、濃霧に出會つたやうで展望することが出來ない、而も其の風は、風呂場に湯氣が充滿した時に感ずるやうな蒸暑さでありましたから御止め申上げましたが、殿下には、イヤ斯う云ふことは全く千載一遇で、願つてもないと仰せになる程の御元氣で御出掛けになつたのは、

實に恐懼した次第であります。此のアレンビー元帥の官邸は小さいものでありますから、私だけが御供をして泊つたのでありますが、一人てありますと色々交渉等がありますので、自然殿下に御構ひすることも出來ず、殆ど屬官一人て御世話申上げた位で、私は非常に恐縮しましたが、それでも殿下は何時も御機嫌が好く、更に不快な御顔も遊ばしませぬでした。其の翌日埃及王を御訪問遊ばしましたが、此の時はアレンビー元帥が御案内申上げて、宮殿の前で儀仗隊の御閲兵遊ばされ、終つて階上應接間に於て、埃及王と握手を遊ばされ、極く簡単な御挨拶の御交換がありました。更に殿下は五六千年前の埃及古代の文明を語る博物館圖書館美術館其他マホメット教の寺等を御覽になりましたが、殊に博物歴史に御興味深き殿下には、一層御熱心に御見學遊ばしました。二十日ポートセツドに御歸艦になり、二十一日御出發マルタに向はれました。マルタに着く前夜、即ち二十三日の夜から、俄に天候が悪くなりまして、二十四日の朝は前に申上げた通り、風力十と云ふ時化になつたのであります。後に聞きますと、

英國の地中海艦隊の將校等は、是では日本の艦隊は、迎も豫定の時刻に入れないであらうと言つたさうであります。大した故障もなく豫定通り入港致しました。此の時化でも 殿下の御機嫌は非常に御宜しく、飛行機や驅逐艦が暴風雨を衝いて御出迎へ申上げたのに對して、大さう御満足に思召されたのであります。マルタは元から日本人に對する感情は好かつたのであります。戦争後更に著しくなり、從つて今度の歡迎も一層盛大であつたのであります。奉迎の人は群をなし、市中は彩旗を以て飾り、家々の屋上窓迄も小旗をかざして歡迎の意を表し、尙地中海艦隊は 殿下を公式に御歡迎申上げました。偶々此の艦隊の旗艦に英國 皇帝の第四皇子ジョージ親王が御召しになつて居られて、殿下と度々御會ひになりましたが、何でも三つ程下かと思ひます。兩皇室の爲めに非常に結構なこと、拜しました。マルタの總督はロード・ブルマールと云つて、ヘーグ元帥よりもつと偉いと言はれて居る位で、立派な人格の方であります。殿下の御歡迎に就てもカイロのアレンビー元帥同様、實に誠意を籠めて致

したやうに見受けました。殿下はマルタに於て、初めてオペラを御覽になつたのであります。是は總督夫妻の御案内でありましたが、元來マルタの人は非常に音樂の趣味がありますので、生易しい歌劇團では持てないのです。偶々伊太利の相當良い歌劇團が來て居りましたので、殿下も二三時間オペラで面白く御暮しになりました。何でもオセロか何かを御目に掛けたのであります。又此處では第二特務艦隊の戦没者の墓に、第三艦隊より參拜隊を出しましたが、殿下にも親しく御臨場になつて御拜になりましたので、艦隊一同も深く感激いたしました。

二十六日にマルタを御立ちになり、二十九日西班牙の南方に達しました時、偶々殿下満二十歳の御誕辰に相當しましたので、艦隊は漂泊しまして、長官も鹿島より香取に來られて御陪食を仰付けられ、餘興をも陪覽して歸られました。是は 殿下今回の御巡遊中最も御記念深いもの、一と拜察いたしました。

三十日には九時半にジブラルタルの港に御着きになりました。而して此處の歡迎も

外と同様盛なもの、禮砲と驅逐隊を以て迎へられました、特別に詳しくは申し上げませぬ。唯此處には亞米利加の地中海艦隊の司令長官ニブラック中將がヒッツパークに坐乗して、佛蘭西南岸から態々大速力を以て來合はせ、殿下を御歓迎申し上げたのであります。さうして長官の御訪問に對し、殿下も御答訪遊ばしましたが、米國の軍艦の歓迎は非常に鄭重でありまして、御乗艦の時と御退艦の時と二度も皇禮砲を發射し、最も完全な儀式を致しました。且つ長官は大統領の傳言として、殿下が今回亞米利加に御出でにならない事を非常に遺憾とすると申し上げ、將來機會あらば是非御出でを願ひたいと言上致しました。殿下はそれに對して、日程の都合其の他で今回は亞米利加には行かれないが、併し亞米利加と日本とは、唯海一つを隔て居るばかりである、將來に於て機會があれば、自分も是非行きたいと思ふ等の御話があつたやうでありました。殿下が亞米利加の軍艦に御出でになつたのは是が初であります。此の日午後總督は、殿下竝に艦隊職員供奉員等を競馬に招き、亞米利加の長官も御供をしたのであり

ます。此のニブラック中將は太平洋問題を非常に研究して、ヤップ問題の材料を與へて居ると云ふ話もありますが、非常に淡白な面白い人でありまして、競馬が開始されると紙を細く切つて、それに一々番號を記し、帽子に入れて 殿下の前に持つて參り、どうか此の紙を御取りを願ひますと申し上げながら、殿下初め他の艦隊將校竝に供奉員にも配りました。然るに偶々 殿下の御取りになつた紙の番號の馬が第一着に勝つたのです。さうすると長官は勝つと金を上げるのですと言つて、六片を出して殿下に差上げようとしたので、殿下は餘程御躊躇になりましたが、長官が何時迄も止めませぬので、遂に之を御取りになつて、更に小栗長官に御渡しになり、後に亞米利加の長官に返して呉れと仰つしやつたさうであります。然るにそれが誤り傳へられて、東宮殿下ジブラルタルに於て賭を遊ばされたといふことになつたのであります。が、事實はそれだけの事でありませぬ。又競馬に就ては、巴里のポアーと云ふ公園の中にあるレンシャンと云ふ競馬、是は巴里の町端れにある四つの中の一つで、有

名なものでありますが、その一番大きな賞品を出す時には、南亞米利加邊からまで澤山人が來るのであります。或時 殿下は大統領の御案内で其處に御出でになつて、大統領席に於て閑院宮殿下と御覽になつて居られた。所が佛蘭西人其の他の外國人が、日本の皇族は賭をしないと云ふことを不審に思つて供奉員に向ひ、日本の皇族方は何故賭をしないのかと聽かれて困つた位でありまして、要するに新聞の一寸とした間違に過ぎなかつたのです。其他ジブラルタルに於ては、大砲の威力が唯今の如くになりませぬ頃に作つた大きな坑道があります。非常な大規模のトンネルで、それに幾つもの孔が明き、西班牙に向けて大砲を打つやうに出來て居ります。何里と云ふ長さに續いて居りますが、殿下はそれを御覽になり、又一日は貯水池の御見學に御費しになりました。此の貯水池も亦大規模なものでありまして、天水を斷崖絶壁の斜面から取り、其の設備は此の頃漸く完成したやうであります。世界一と迄稱されて居ります。又此處では一年に一回分列式に似たやうな事をやるのですが、外國の皇帝が來た

時には、特別に行ふのであります。處が總督は 殿下の爲めにも特に是を催ふしたのであります。兎に角斯く御往航の途中御立寄になつた所は、總て英國殖民地でありまして、しかも到る處熱誠な歓迎を受けられたのであります。是は日英の關係と英國皇帝陛下の特別なる思召に依つたこと、拜察致して居ります。

五月三日にはジブラルタルを御出發になり、トラファルガルの古戰場を過ぎ、ビスケー灣の浪も静けく、五月七日早朝スピットヘッドに入つたのであります。此の時は最新式の飛行機が十六臺、軍艦九隻で御出迎申上げ、我が艦隊は皇太子旗を掲げて居りました。當時英國は石炭坑夫が總同盟罷工を行ひまして、石炭の輸出國が反對に輸入國となつて、亞米利加から大分來たのであります。従つて工場の大部分は休業し、汽車はメインラインでも、一日に一回よりない所が澤山あつて、途中の停車場に乘客を置いてきぼりにする事が珍しくない。ハイドパークでは豫備兵が動員されて、何時暴動が起つても差支ないやうに準備して居ると云ふことが傳はつたのであります。元

來大西洋艦隊が全部スピットヘッドで御出迎する筈でありましたが、石炭が無く、又出動の準備をして居りましたので、此方に來て居れないと云ふことで、僅に戦艦が二隻居りましたが、其の一隻はクインエリザベスで、是は曾てピーター將軍の旗艦であり、又獨逸艦隊降伏使が降伏状を認めたとに由つて知られて居る艦であります。大西洋艦隊司令長官は前述の事情で、その意の如くならぬことを頗る遺憾として居られたのであります。

斯くて兩艦は愈々五月九日早朝昇る旭日に皇太子旗を輝かせながら堂々とポーツマスに入り、香取は靜かに棧橋に横着けされました。やがて十時過ぎ海軍大佐の正装祭たる英國 皇太子殿下が御來艦になりますと、莊嚴なる儀式の裡に、我が 皇太子殿下は舷門迄英國 皇太子殿下を御出迎へになり、林伯爵の御紹介で握手を遊ばされましたが、其の一刹那の莊重な感じは何とも名狀することが出来ません、只思はず涙が出るのを止め得ませんでした。それより兩 殿下並に閑院宮殿下には、暫く中甲板

の御坐所で御話になり、十時半御上陸、陸上の儀仗隊を英國 皇太子殿下の御案内で御閱兵になり、次でポーツマス市長の捧げた歓迎文を御受になつて、宮廷列車に召されロンドンへ御向ひ遊ばされたのであります。此の時英國 皇太子は接伴員を同伴されましたが、何れも英國 皇帝の特別な思召で選拔された地位名望共に備はつた人々でありまして、實に細心の注意と好誼とを以て終始應接に心を盡されました。

汽車は零時四十分にヅイクトリヤ停車場に着きました。英國 皇帝は第二皇子ヨーク親王並に要路の顯官を従へさせられて御出迎になりました。禮服勳章眼を眩せんばかりの中に靜々と御下車遊ばされた我 皇太子殿下は、皇帝陛下と簡單なる御挨拶遊ばされて後、陛下の御先導で御閱兵遊ばし、次いで正装嚴めしく輝ける儀仗隊を前後に公式鹵簿肅々とバッキンガム宮殿に向はれたのであります。此の時停車場より宮殿迄は、兩側に兵がずつと堵列して居りましたが、必ず二箇所か三箇所で君ヶ代が聞えます、是でもどれだけ多數の隊が居るかと云ふことが想像されます。又兵の後方には何十

萬と云ふ群集が居り、尙其上窓からもハンケチを振り萬歳を唱へ、實に壯觀を極めたのであります。噂に聞けば塔列兵の着ました盛装は、戦後初めて給與したものでありまして、今回其の補充には餘程苦心を要し、殊に其の一部分の被つて居りました熊の黒皮の帽等は、露西亞が御承知の通りの状況にある爲め、それを得る事が非常に困難であつたさうであります。それにも拘らず斯く鄭重に御迎へしたのです。要するに倫敦に於ける歓迎は、恰も戦前獨逸皇帝を迎へた時と同様であります。當時獨逸皇帝は勢盛んにして、且つ英國の皇室とは御親類である。それを考へて見れば、我が皇太子殿下に對する英國の歓迎は、異例の最善を盡したと申しても可いのであります。愈々宮城に着きますと、其の前の廣場で早速儀仗隊の御閱兵があり、續いて 皇后陛下、メリー内親王方と御會見になり、我が 天皇陛下の御傳言を 皇帝陛下に 皇后陛下に御傳へになつたのであります。斯く儀式が終りますと直に、極くインチメートのランチョンがあつたのであります。其處の卓子に就いたのは兩 陛下、日本の兩 殿下、ヨーク

親王、メリー内親王と珍田伯爵のみで、御話も打解けて御親密であつたさうです。英國皇太子はセントゼームスに御住居遊ばすので、此の時は御列席がありませんでした。而して午後には皇族其の他の御訪問から忠魂碑、無名戦士の墓に御參りになつて、花輪を捧げたり遊ばして、夜はバッキンガム宮殿に於て、殿下御歓迎の爲特別な正式晚餐會が催されました。其の時食卓に就いたのは百二十八名、中先方では皇族が八名御出席のやうでありました。此方は兩 殿下並に供奉員、大使館の二三、外務省海軍省の高官の人々でありましたが、其の他は外國の大使、朝野著名の人のみでありました。私には此の時盛装された殿下の後方に立つて居つて、御通譯の光榮を擔ひましたが、斯る立派な晚餐を見た事は曾てありません。見ると卓子の上に非常に大きな飾物が澤山出て居りましたが、それは純金ださうであります。ナイフにしてもフォークにしても、其の切る部分は純金でなかつたに違ひないが、其の他は純金で、ウインザー家に何百年來傳はつた家寶であつて、戦争中は敵の飛行機や飛行船襲來の損害を氣遣つて、穴

の中に隠して置いた程の品でありますのを今回特に出したのであります。歓迎の盛大でありましたことは、陛下がデザートコースで申された御言葉に依つて説明が出来ると思ひます。先づ陛下は日本の皇太子殿下が此の未曾有の御盛舉に於て、第一に英國を御訪問下さるのは非常に有難い、尙日本が戦争中英國の味方に加はつて、共同作戦をして呉れた事に就て、陛下に御禮を申したいと述べられ、次で御幼少の折に御兄上と共に日本を御訪問あらせられた際、日本皇室竝に國民から受けた歓迎は決して忘れ得ざる處で、明治天皇の御好意を今日其の御孫さんに御返しすることの出来るのは非常に喜ばしいと申されたのであります。其の御來日當時の色々な御逸話がありました。長崎式部官の話に、何でも鎌倉から金澤に越えるのに馬で御出でになつた、さうすると御二人共馬から御降りになつて、御兄さんの方は馬の手綱を取つて御上りになる、今の陛下は御供の人に手綱を取らせて上られた、さうすると御兄さんが弟さん即ち今の陛下に、あなたは何故自分の乗馬を自分で始末をしないかと言はれる

と、イヤ私は自分でしたいのでありますが、日本皇帝陛下より御附け下すつた方が此方で取るからと云ふので、私は陛下の御命令に従つたのでありますと仰せられ、誠に優しい御心を二人共有つて居られたと云ふ事を聞いた事があります。兎に角斯く過去の御思出もある處から、其の歓迎も一層盛んであつたのだらうと思はれます。

斯くて三日間バッキンガム宮殿に御泊りになる事になつたのであります。兩殿下の御部屋と珍田伯や私の室とは同じ建物の中では御座いましたが、往復に二十分位もかるゝ距離が御座いましたから、御用の時は随分御都合の事もあらせられたことと恐察致しました。然し殿下には少しも御不快に思召すやうな御様子もなく、何時も御機嫌よく御行動になりました。此の三日の公式御滞在中殿下は一日は皇太子殿下の晚餐、外務大臣の晚餐、又市役所の歓迎會に御臨席になりました。此の市役所の歓迎と申すのは、ギルドホールと云ふ所で市會を開き、満場一致で決議した歓迎文を市長が讀上げるのであります。而して此の歓迎文を入れる箱は銀で造るのが例であり

ますが、今回は特別に金で造りました。此の時 殿下には御答辭を遊はしましたが、御着英後僅か三日で、しかも幾多英國の高位高官が綺羅星の如き面前故、御側に侍する者さへ胸の轟を覚えましたが、是等には少しも臆させ給ふ御様子なく、御音吐朗々と如何にも末頼もしき御態度を以て御立派に遊ばされたので、吾々の安堵は申すに及ばず、席に在つた英國人も皆感激した程でありました。尙一日はウインザーの離宮に行かれて、ヰイクトリア女皇の墓に御参りになり、花輪を捧げられたのであります。斯くして公式の三日が終わりますと、今度は五日間政府の賓客とならせられましたが、此の待遇は外の國には曾てなく、只英國丈けであります。此の五日間には上院下院の御見學、上院に於ては偶々閉院式があつて、是に御臨席になりました。其の他博物館や、英蘭銀行にも御出でになりましたが、英蘭銀行では殆ど例のない事でありましたのに、殿下の爲め特に午餐會を催ふしました。殿下には日本の證券が高く積んであるのや、金塊が何億と云ふ程置かれてあるのやを御覽になつて、餘程面白く御感じ遊ばした様

であります。其の他株式取引所、倫敦タワー、テムス河、オックスフォード大學、又克蘭フォードで少年團を御閱團遊ばし、デッカーズと云ふロイド・ジョージの別邸のある處で午餐を召させられ、一日はケンリー飛行場で色々御見學遊ばし、供奉員も飛行機に同乗したのであります。其の他グリニッチの天文臺、グリニッチの海軍大學、オルダーショットの士官學校、陸軍大學なども五日間に御覽になつたのであります。此の五日間は矢張り公式でありますから、日程も作つてあつて少しも休めず、朝から晩迄引廻はされるので實際堪らない、殿下にも定めて御勞れを覚えさせられた事と存じます。十八日は公式の期限も終了しまして、御静養と云ふのでスコットランドに成らせられました。途中ケンブリッジ大學に御立寄り遊ばした際、法學博士の學位を御受けになり、正式の眞赤なガウンを召し、大黒頭巾の潰れたやうなのを被られて、誠に可愛い博士と御なりになつたのであります。其の翌日はエデンバラに御出でになつて、此處では英皇室の離宮に御泊りになりましたが、其の間一日はフォース・ブリッジを御

視察になり、橋の中央で特に汽車を止めて、技師長から色々説明を御聴きになり、それよりロサイスの軍港に御出でになつて、彼の巡洋艦隊が根據地とした當時の設備などの残つて居る者を御覧になりましたが、殊に御感じになつたのは、英國の高速力戦艦のフードと並んで、獨逸から分捕つた戦艦一隻が碇泊して居つた事であります。尙エデンバラに於きましては、或は慈善病院或はエデンバラ大學——此處でも法學博士の學位を御受けになりましたが、其總長は日本の理科大學に長年居りましたニーイングと云ふ理學博士で、非常に歓迎を致したのであります——、其他城跡兵營等を御巡覽になつて、二十一日には世界にも名高い此處の少年團を御閱團遊ばして、篤い御言葉もございました。當時集りました少年は千五百名程ありまして、非常に美事な者で御座いました。次いでフォースと云所に御下車になり、アソール公爵の屋敷に御出遊ばしました。アソール公はスコットランドでは大名の家柄であつて、主人は近々法學博士となる筈で、夫人は既に文學博士の稱號を持ち、尙ピアノは名人の中に數へらるゝと云ふことです。

公爵は 殿下の御歓迎に就ては太くも心を盡し、前以て日本に關する著書を參考として風呂場の設備迄新にし、春雨三番叟等の日本音楽を研究して御聞きに入れました。其の領地は二億七千萬坪と云ふ廣大な者でありまして、山もあれば瀧もあり、川も數條あると云ふ有様で、中には宛も中仙道木曾川あたりの様な景色の處もあります。殿下が此處に御着になりました時には、其の手兵五十名を動員して儀仗隊とし、二十一發の皇禮砲迄打ちました。英國でも個人で手兵を持つて居るのは此の人丈けであります。而して公爵は大戰の際其の手兵を率ゐてダーダネルスに出征し、勇敢に戦はれたと云ふことです。公爵邸に於ける 殿下二日間の御滞在は、全く御静養の意味でありましたので、何等日程もなく、邸内全部を開放して、御自由に御過ごし遊ばすやうに待遇いたしました。それ故 殿下には森林中の御散歩を遊ばし、山上の景色を御賞美になり、野外の御茶に興ぜられ、或は鮭釣等も御試みになりました。夫の活動寫眞にあります 殿下が御釣りになつた鮭は一貫五百日程あつて、其の川は住居から十分も自動車に

乗つて行つた處にあるのです。斯く 殿下は非常に御愉快の日を御過ごしになりましたが、愈々御出發の前晚には晚餐會を催ふされ、乾杯の後食事が済みますと、男だけ椅子の上に立つて、片足を土足の儘テーブルクロスの上に載せて、腕を組合せながら手を振つて唄ふのであります。是は 殿下も遊ばしましたが、段々聞くとスコットランドの風習であるさうです。それから續いて舞踏室に行くと、其處には公爵夫妻、親類其の他客に来て居る者、或は手傳に来て居る下女下男に至る迄全部集つて、少しの隔もなく如何にも愉快氣に、平和の氣満々として踊ります。踊は最初劔を十字に立つて、其の周圍を一人宛て踊り、次には男女手を取つて踊るのであります。決して卑らしいものではありません。下女下男の如きが公爵と一緒に踊る平民的な處を御覽になり 殿下も非常に御感じ遊ばした御様子で、名を申すことは憚りますが、供奉の某々にも是に倣つたら可いと仰せられました。一體平民的な公爵夫妻は、平常も二三の使用人を置く許りで、特別な場合丈け斯うして領地内の者が手傳に来るのであります。而して松の苗木等も自分で鋤を取つて作り、總て其の培養法の研究も致して、本年は四十五萬本も自身で植ゑる筈だと申して居りました。此の潑刺とした活動的な處は、日本人も大に模範とす可きであると思ひました。

斯くて二十四日にはブレイア・アソールを立つて、マンチェスターに御出でになりました。此處は御承知の通り工業の中心地で、自然勞働者も多いし、紡績業が非常に盛んであります。大阪の商人とは商賣敵であります。従つて或は御歓迎に就て多少熱誠の度を缺きはしないかと思ひましたが、夫は全く杞憂でありまして、愈々停車場に着きました時は、倫敦でも見なかつた程の人で、株式取引所に御出でになつた時の如き——是は倫敦でもさうであつたが——一萬三四千の人が来て、全く立錐の地もない、さうして 殿下がトリビーンの上に御出になると、萬歳々々で大變な騒ぎ、殿下も其の光景に黙つて御退きになる譯にも行かないで、極く簡單ではありましたが、御挨拶を遊ばされたのであります。斯くて 殿下が外に御出て遊ばすと、其處には小學校

の生徒が堵列して御迎へ申上げて居ります。そこで何故斯く歓迎するかと云ふと、市長の説明では日本とマンチェスターとは商賣敵である。併し吾々は正々堂々と競争して其の間に何等の蟠も有つて居らない。のみならず日本は英國と同盟國であつて、殊に戰爭中は英國を援けて呉れた、此の恩は忘れない。今日 殿下を歓迎する此の好いインプレッションを是非小學校生徒に與へて置きたい。數年ならずして是等小學校の生徒がマンチェスターの中心人物になるのであるから、争ふ所は正々堂々と争ひ、手を取る所は共に手を取つて行く事が吾々の希望である。故に小學校の生徒を出してあるのだと云ふことでありましたが、此の説明を聽いて洵に嬉しく感じたのであります。

此處にはヴィツカースの電気工場や、アームストロングの機械工場等がありまして、此の頃は機關車を作つて居ります。又クロスリーと稱する自動車會社もありませんが、是等總てにも御出でになりました。殿下はヴィツカース會社で、職工に供給する辨當を御覽になつて、其の立派さには御驚きのやうでありました。それは一シリリングと云

ふから、日本の金にして四十錢にならず、三十何錢かでありまして、吾々が五十錢出して海軍省で食ふ辨當の比ではありません。家でもあんな立派なものを平常食つては居らない程、却々立派なものでありました。會社はそれでは餘程損をして居ります。それで 殿下は、斯う云ふ所迄社會政策を施さなければならぬかと仰つしやつて入らつしやいました。尙此處では最後の日に運河會社に御出でになりました。此の頃行かれ方は御承知でありませうが、海岸からマンチェスター迄運河が出来て居りまして、トランスアトランチック船の入るやうになつて居ります。是も見た方がありませうが、一運河が通つて居ると、其の上に又交叉して運河が通つて居り、平面が違つて居ります。丁度下の運河を船が通る時には、上の運河を其の部分だけ水平にして、回轉橋のやうに回はすやうに出来て居ります。殿下は馬に乗つた人が、其の上に居るのを見て、大さう御慰みになられたやうであります。二十五日には倫敦に御歸りになつて、二十九日迄日本の大使館に御居り遊ばして、此の間に或はイートンを御覽になり、バッキン

ガム宮殿の午餐、其の外彼方此方の御歓迎、日本人協會或は日本協會等に御出でになつて、僅か一回御買物に御出でになつたきりて、非常に御忙しく御暮してありました。二十九日愈々倫敦を御出發の時には、皇帝及皇太子殿下の御見送りをヴィクトリヤ停車場に受けさせられ、ポーツマスに御歸艦佛蘭西に向はれたのであります。ポーツマスでは皆さんも御承知の通り、日本の艦隊は何時も歓迎され、下士官兵の元氣の好いのは、何處の海軍にも優つて居り。殊に當時のポーツマス市長は、勞働者の上りではあります、日本から勳章を頂いて居りますし、其の他色々の關係で日本人には宜いのであります。其處に持つて来て、母親と子供とが海岸で浪に浚はれた所を、水兵が着衣の儘飛込んで助けたと云ふ事が報道せられるとか、其の外色々な事て評判が好く、非常に歓迎されたのであります。尤も歓迎を受けたのは此處ばかりではありませぬ。巴里でもツーロンでもネーブルスでも盛んに歓迎を受けましたが、殊に巴里に於て斯う云ふ事を聞きました。丁度伊太利で大使館附武官をして居つた或伯爵、それは

此の頃病氣で海軍の方を罷めて、ポアーと云ふ公園の側に住んで居りますが、其の人を訪ねました時、或海軍の老將官が佛蘭西に来て、斯う云ふ事を言つたと云うて居りました。どうだいお前日本の兵を見たか。エ、毎日自分の家の前を通るので見て居ります。どうもあゝ云ふ兵を有つて居る國と連も戦争は出来ないぞと云うたさうであります。而して是は風紀及軍紀の良い所から觀察しての話ださうであります、非常に皆賞讃したので、吾々も大さう喜んだのであります。六ヶ月の間大部分艦上で暮して居つた事ですから、或は多少悪い風潮に染りはしないかとも考へましたが、別にさう云ふ事もなく、斯る好い印象を残して呉れたのは、矢張彼等も殿下の御供と云ふ責任を感じて居つたのでせう。

愈々巴里に着きました、英國の華々しい歓迎に比して、今度非公式の歓迎に移ると、何となく物足りない感じが致しました。さうして熱誠の度に於ても缺けて居つたのであります、是は國情が違ふからであつて、上下共殿下を盛んに歓迎すると云ふ

に於ては一致して居りました。陸軍總指揮官ペダン元帥が、三日も四日も戰場を御案内するとか、陸軍大臣が遠く迄行つて、殿下を歓迎する等の事は、外にはなかつたのであります。即ち佛蘭西人は、自分は皇室とか政府とか云ふものから何等束縛を受けて居らない。従つて吾々の歓迎の氣分と云ふものは、少しも懸値がないと申して居りましたが、實際さうであつたと思ひます。殿下も亦佛蘭西に感謝しておゐてになりました。詰り佛蘭西は此方の言ふ事を眞面目に取つて呉れまして、何處に行つても非公式で通したいと言ひました通りに行つて呉れたのであります。それで巴里に御在ての間は、最初は六月十日迄、次は六月二十日より二十二日迄、次で二十五日頃より七月七日迄、其の間ずつと大使館に御泊りになりましたが、六月一日に巴里に御到着、其の翌日は大統領の訪問、是が巴里に於ける唯一の公式の御訪問であつて、其の時午餐會を催ふされ、百名程の人が食卓に就きました。それは英國と違つて他國人は招かず、只佛蘭西人だけを集めたので、却々盛大なものでありました。其の次には無

名戦士の墓を訪はれ花輪を捧げました。是は佛蘭西の戦線を大きく八つに分けて、其の各正面から一人宛の無名の戦士八人を選び、其の八人中から更に一人を選び、それを代表的戦死者として巴里の凱旋門の下に埋めたのであります。其處で殿下は祭文を御讀みになりましたが、今迄他の國の皇帝或は皇族或は將軍の讀んだものとは餘程考が異つて、東洋式の所がありますので、著しく佛蘭西の注意を惹き、殿下の御評判は益々高くなつたのであります。殊に殿下は御聲が非常に大きくて、場の隅々迄徹底するのであります。倫敦に御在ての時に、日本協會の晩餐會をホテルで催ふし、八十人程御陪食をした際、席上林大使、日本協會長、日本協會役員、海軍卿等の演説がありました。殿下の御演説が一番英國人を感動させたのであります。無論日本語は解りませぬが、御聲が大きくてはつきりしてゐた爲めに、何れも感動したのであります。此の墓の時は凱旋門に向つて御讀みになつたのであります。強い風が吹いて居つたのに向つて御讀み上げになつたのでありますから、随分御苦しかつたこと、思

ひます。私が後で佛蘭西語の譯文を讀んだ時は、全く血を吐くかと思つた程でありましたから、随分御苦しかつたらうと恐察いたします。殿下は最初の十日竝に後に巴里に御出でになりました時に、博物館だの、ナポレオンの墓だの、市役所のレセプションだのに御出でになり、或はフォンテンブローと云ふと市の先きになりますが、丁度ナポレオンの百年祭をやつて居りましたので其處にも成らせられ、其の外砲兵學校、ジョセフインの學校のある處、サンゼルマン、ジェルサイユ等を御覽になり、又或は御宴會後大統領と御一緒にオデオン劇場に成らせられ、米國劇團のやつて居りましたマクベスを御覽遊ばしました。此の劇團は大統領の招待で、米國から來てやつたのであります。所が偶々殿下の御晚餐と同時になつた爲、大統領や名士がそれに御招かれ致し參られなくなりました。それで亞米利加人が大さう恨んで居ると聞きましたので、遂に御食事の後劇場へ成らせらるゝこととなり、御下賜等も遊ばされました。處が亞米利人は頗る之に感激しまして、米本國迄も大さう好反響を來したのであります。

或一日巴里でショーメーと云ふ寶石屋に御買物に御出でになりました。此のショーメーと申すのは巴里で一二を争ふ寶石商でありまして、商品も非常に多く、中には世界無比と云はるゝ大眞珠で、直徑十八ミリ、目方百四十五瓦程の品さへ藏して居ります。其の他ダイヤモンド、ルビー等の高價な品は、實に眼も眩むばかり澤山にあります。而して此の人は毎年其の儲けの幾割かを慈善事業にも寄附する事に決め、大抵何百萬法といふやうな多額を出すさうであります。殿下は澤山持ち出した品の中から、御自身で一つ／＼御選み遊ばしながら、彼は 皇后陛下に御似合であらう、是が御好きであらうと仰つしやつて、頸飾を二つ程御買上げになりました。是に就ても私共が喜ばしく思ひましたのは、第一には御孝行と云ふ點から、又從來何か御求めの時は、侍從が行つて二三持つて參り、値段も御存じなく御取りになるのであります。それを御自身商店に御出でになつて御經驗遊ばしたのは、不一方吾々の有難く感じた處であります。其の他にも斯の如く御微行で御歩きになりましたが、巴里に於ては遂に地下鐵

道に迄御乗りになつたのであります。丁度竹下中將と二人で御供をして、ノートルダムに行つた時であります。初めにモンドシチーと云ふ所に集り、其處には何でもありますので、殿下も非常に面白く一時間近くも御散歩になりましたが、それから地下鐵道に乗らうと仰せになりますので、自動車を先きへ廻はして置いて御入りになりました。先づ切符を殿下御自身に差上げますと、殿下は改札口で切符を固く握つたまゝ御切らせになつたのです。それがひどく切り難くかつたと見えて、殿下が二三歩御出でになつた時に其の改札人が、何故切符を切らせないと呶鳴つたのです。是には吾々も甚だ恐縮しましたが、併し向ふは殿下と云ふ事を知つて居る譯でありませぬから咎めることも出来ず、殿下も初めて叱られたと仰つしやつて、御笑になつて済みました。又レストランへ二回ばかりと、カツプエーにも一度御出でになりましたが、一度などはさう云ふ所へ度々御出でになるのは困ると申上げたこともありました。併し兎に角御微行の事でありますから、色々自由に御覧になられます。レストランに御出

でになつた時でも、供奉員が支拂をするのを御覧になつて、成るほど六人で幾らかゝるものであるとか、又寶石屋に御出でになつて、是と是では是だけの差がある、それは斯う云ふ違があるからであるとか云ふことが、自然に御解りになるのであります。今迄は金の事に就ては殆ど御考がなかつたのです。吾々でありますと三百八十圓の月給で、子供が五人あつて下女二三人使つてゐるとし、それで食へるか食へないかと云ふ問題でありますから、自然金の値を知つて居りますが、殿下には其の必要がない。併し是は將來の爲、經濟問題或は豫算問題等の數字を御思考の中に入れる上に、大さう御利益になつたと拜察して居ります。是が若し日本であつて、臣下の状況を御微行で御覧になるとしては、却々斯く御自由な譯には參りません。耳に依つて色々な事を御存じてありますが、目で御覧になることはないのでありますから、外國に御出でになつて、初めて斯く眞の御微行の御出来になる機會に於て、兎も角出来るだけの事を遊ばしたのは、洵に結構であると考へて居ります。さう云ふ風でありますから、巴里

に於ては更に下水の中に迄御入り遊ばしたのであります。無論下水と言つても、其の設備は誠に完全して居りまして、悪臭などは致しませぬ。併し下水は下水で、さう云ふ所迄船で御視察遊ばしましたが、實に吾々としては感謝致さなければならぬと思ひます。

十日には一と度巴里を御立ちになつて、ブラッセルに御出でになりました。此處は英國に於ける歓迎と大同小異で、皇帝、皇后も能く似た形式の下に御應接遊ばしました。而し此處で御覽になつて御感じになられたものは、第一にコンゴの博物館で、是は皇帝御自身で御案内になりましたが、御承知の通り阿弗利加のコンゴは白耳義の殖民地で、先帝レオポルド陛下が私財を投じ、苦心經營の結果今日の如くになつたので、其の大きい事に於て、又富源の多い事に於て、實に驚くべきものであります。更に皇帝の御案内に依つて、イーゼル河畔の戦況を寫したバノラマを御覽になりましたが、是は當時將校として従軍した有名な畫家のかきましたものでありますから、

其の慘憺たる光景が能く現はれて居りました。尙一日はワートルローの古戰場に成らせられました。ウエリントンが大本營を置いたと云ふ所には土を積んだ上、佛蘭西を睨んだ獅子が置いてありますが、殿下は其の獅子の所迄御出でになつて、戰場を御覽になりましたので、其處では白耳義に於ても有名な戦術の教官で、戦史の研究家たるリュービツクの説明を御聴きになり、御感想深くあられた様に拜しました。又白耳義に御在での間二日はホテルに御泊り遊ばして、其の間一日はアントワープに御出でになり、他の一日はオステンド竝にイーゼル河畔に御出でになりました。此のオステンドは御承知の通り海水浴場でありますが、戦争中獨逸の艦隊が潜水艦の根據地として、英吉利の艦隊を大分惱ました所であります。即ち非常に大きな規模で、且つ非凡な勇氣を以て英國が閉塞を行つた所であつて、今尙ヴェインデクチープと云ふ艦が沈んで居り、棧橋は壞れて、當時の状況が歴然として残つて居りました。又イーゼル河畔に於ては、今も殆ど村と云ふやうな村はありませぬ。イーブルスに於ては、殆ど壁が

残つて居るだけで、新たに家が弗々建てられると云ふ状況であります。元來此の附近の田舎は、海水面より低い所であります爲めに、海水を汎濫さして敵を防ぎましたので、海水は既に排出しましたが、兎に角三四年の間水に浸つた所でありますから、今尙荒廢を極め慘憺たるものであります。イーブルスに於ては、英軍十五萬獨軍十五萬を犠牲にした處でありますので、此の地一片の土塊と雖も英國の爲めには頗る貴重である、英國 皇帝の御話になつた事を御思出になり、御親電を御打になりましたが、それに對して英國 皇帝よりも、大さう御懇篤な御返電があつたやうであります。又白耳義の 皇帝陛下は甚だ御英邁であり、其の御風采も立派で、餘り口數も御利きにならず、何となく鷹揚に見上げらるゝ方であります。今回の戦争に於て獨逸より最後の通牒を受け、御前會議の時に 皇帝の爲された御演説は實に悲壯なもので、私はそれを日本語に譯したのを読んで感じたのであります。而して戦争中白耳義の大部分は占領され、残つて居る地は極く僅てでありましたが、それでも 皇帝は佛蘭西に御退

きにならず、何時も戦線第一線に出られて士氣を鼓舞され、又講和會議に於て白耳義の形勢が少し不利になつた時など、直に飛行機でヴェルサイユに行かれたさうです。さうして其の時巴里で西園寺全權をも訪問されたと云ふことであります。尙 皇帝は飛行機に就て並々ならぬ伎倆を有たれ、皇帝を罷めればモーターの技師になると冗談を申される程、自信を以てやつて居られるのであります。此の程英國艦隊に候補生として乗つて居られる第二皇子を御訪問になる時も、皇帝が第一の飛行機、皇后が第二の飛行機に乗つて行かれ、途中故障が起つて、第一の飛行機がドヴァー近くに着陸しますと、第二の飛行機も着陸して、修理の上再びポーツマスに向ひ、豫定より十五分遅れて着いたと云ふことがあります。又 皇后陛下も却々偉い方で、獨逸の出ではあります。兎に角獨逸人で尊敬されて居るのは、白耳義では 皇后陛下だけであります。さうして 皇帝と同じく戦争中常に第一線に出られ、御止めしても聽かれないで、塹壕の附近をウロ／＼されるので、兵が塹壕の頬白と云うたさうで、今でも其の綽名が

残つて居る位有名であります。此の兩陛下の近くに三日御過ごしになつた殿下も、得られた所が澤山あらうと思ひます。殊に白耳義の皇帝は評判が好く、若し吾々が共和政府を樹立する事が出来るとしても、其の第一期の大統領は皇帝陛下である、社會黨すらも言つて居る位でありまして、白耳義に於て誰が一番偉いかと聞くと、百人中九十五人迄は皇帝陛下と答へ、次はカトリック教大僧正メルシエー、次がブラッセルの市長ロックスだと申します。此のロックスといふ人は、戦争中人質に取られたのを、羅馬法王が獨逸皇帝に願つて、漸く許されたと云ふ歴史を有つて居るのであります。

十五日には和蘭に御着、先づアムステルダムに御出でになりました。此處でも宮殿に御泊りになりましたが、此の宮殿が實に舊式なもので、未だ電燈を用ひずランプであります。さうして山寺よりも引込んだ所で、殿下は氣味が悪いと御冗談を仰つしやつた程でありました。和蘭は御承知の通り、皇帝は婦人でありますから、停車場には

皇帝の御出迎はなく、皇婿殿下が御出迎へになつたのであります。而して歓迎の熱誠なる點に於ては、何れの國にも劣つては居りませぬ。此處では世界に有名なダイヤモンドの工場を御覽になりました。ダイヤモンドは手でも或は機械でも整理するのであります。小さい物を扱つて居る所は實に巧妙で、是には殿下も非常に御感服遊ばしました。此のダイヤモンドに就て御話致しますと、前に申上げました寶石屋のジョーメーは、ダイヤモンドの眞偽を鑑別する獨特の道具を發明致しました。それはX光線の如き光線をダイヤモンドに通して寫眞を撮ると、本統のダイヤモンドには斯う云ふ結晶が出来、粉を集めた様な物には角のないものが出るといふので、陛下に御持ちになつたダイヤモンドの如きは、ちゃんと寫眞を撮つた御品であります。即ち寫眞に撮つて見れば、本物か偽物か直に分るのであります。又他の方法では或一種の光線を通すと、ダイヤモンドの色が違ふ。例へば印度から出ると、阿弗利加又は伯刺西爾から出るとで違ひ、是は伯刺西爾の、是は印度のと分けることが出来る。又石の

工合で、是は新しいダイヤモンド、是は古いダイヤモンドだと店員は言つて居りましたが、ルビーも同じやうにして見せました。是も唯目で見たのでは分りませぬが、光線を通すと、ビルマのは斯う、印度のは斯うと皆鑑別が出来ます。所が今は鑑別の方法も發達して居りますが、唯目で見たのでは、偽物と本物との區別が出来ない物が澤山出来て居ります。翌日はニコラス皇帝の主唱によりヘーグの平和會議を開いた離宮を御覽になり、又カーネギーの造つた平和宮等も御覽になりました。それで和蘭では皇太后陛下、皇帝陛下、皇婿殿下、我が 兩殿下等の方々だけの御食事がありました。が、是は特別なものださうであります。又或日ロッテルダムに御出でになりましたが、其の港の設備は現在紐育に次ぐものであるさうです。それは實に素晴らしいもので、どうして和蘭のロッテルダム位の所に、是だけのものが出来たかと深く感心しました。殿下の御感じの深くあらせられた事も御尤と思ひます。殊に世界で一番大きい浮船渠もあるのであります。此處の市長は却々に偉い人で、而も十何年か市長の職に

就て居つて社會黨を壓迫したから、是迄に成功したのだと云ふ話も耳にしたのであります。兎に角日本全部の設備を合せても之には及びますまい。

和蘭の御滞在も済みまして、再び巴里に御歸りになる時に、白耳義政府の要求により四時間程の寄道を遊ばして、ルヴァン大學を御視察になることになりました。此處の大學は有名なもので、主として哲學をやつて居りますが、名士も澤山出て居りました。何時の内閣にも三四大臣の出ない事はない程であります。さうして哲學部に於てはソクラテスの哲學をやつて、獨逸のカントの哲學とは反對の方向を歩つて居りますので、カント一派の哲學者は此のルヴァンを憎んで居るのであります。其の復讐をしようとして居りました處が、丁度戦争になつたものでありますから、陸軍の士官に其の圖書館を焼かしたのであります。此の圖書館は世界でも有名で、三十萬からの本を集め、古文書も大分有つて居つたのであります。それを占領してから、白耳義の兵が一人も居らないのに焼いたものですから、白耳義が憤慨したのみならず、諸外國亞米

利加迄も憤慨して、是が少くも米國の參戰を早めたとさへ云つて居ります。詰り獨逸の哲學は、自分の復讐心から世界に多大な損害を與へたのであります。而して其の當時哲學部長をして居りまして、皇帝の次に偉いと云はるゝメルシエーと云ふ人が、戰爭中被占領地に残つて居て、士氣を統一して獨逸に反抗して居つたのであります。殿下が白耳義に御出になつたに付、安達大使の特別なる奏請に依つて、勳一等旭日大綬章を賜はりました。是は法王廳の坊さんに賜はつた唯一の勳章であります。さう云ふ偉い人ではありますが、又哲學者としても世界に有名な人であります。此の人の御案内で、殿下は圖書館の燒跡を御覽になりましたが、殿下にも感慨深くあらせられたやうであります。而して此の圖書館の復興に就ては、佛蘭西の學士院が心配して、亞米利加でも二百萬弗の金を集めてやり、日本でも西園寺公、穗積男爵等が名譽總長となられ、各大學の總長が委員となつて、何とかして日本の學士院も世界的に參加しなければならぬと云ふので、色々奔走されて居るやうに聽いて居ります。次でリエージュに行きました。此處にはロンサンと云つて、僅か二百人で獨逸軍を五六日も止めたといふ有名な砲臺があり、其の人は殆んど皆戰死して居りますが、其の場所も御覽になつて巴里に御歸り遊ばしました。翌一日だけ巴里に御居でになつて、更に又ストラスブルグに成らせられました。アルサス、ローレンの人が五十年來獨逸に對して、佛蘭西の爲めに臥薪嘗膽した事は御承知の通りで、愛國心が強いのであります。曉星中學にはアルサスの人が澤山居つて、私共が海軍に入つても、愛國心に就ては時に依ると説教されることもありまして。さう云ふ風でありますから、殿下を又特別に觀迎したのであります。ライン河の近くでサンサーバドルといふ所には、高さ四間位の大きな時計があります。一つの機械を以て秒分時月年を現はするのであります。のみならず太陽系の運行も致します。丁度一行は十二時五分前に行きましたが、大きな鶏が居りました、それが羽ばたきを致しますと、下の小さい鳥が代つて出て啼くのであります。其の羽を動かす所などは、全く眞實の鳥の通りであります。すると十二時には基督の

弟子が鐘を突く、是もやはり人間の動くやうにやります。基督の前に出て一人々々お辭儀をするのですが、實に種々雑多な運動をして鐘が鳴ります。其の翌日はメツツを御見學になりました。此處では町の外の練兵場で、一個大隊の野外演習を御覽に入れましたが、最新式の操典で、十六七臺のタンク迄が参加し、殿下には非常に面白く御覽になつたのであります。又此の附近に於て獨逸との戦闘中佛蘭西が敗けました古戰場サンブリヴァー——鐵工業の盛んな地であります——の製造所等へも御成になりました。是等は總てペダン元帥が御案内申上げたのであります。ペダン元帥とはヴェルダン戰の時勇名を轟かした人であります。御承知の通り獨逸は非常な勢を以て佛蘭西を席卷しましたが、遂に戦線が固定すると後は動かない。又英國の鎖封で食糧材料が入らないで困りました。どうかして楔を打込んで、ヴェルダンで戦線を突破しようと考え、皇太子の率ゐる軍を以て、一九一六年二月二日の夜、ヴェルダンの奇襲を行いました。佛蘭西軍は不意討を喰つてドン／＼退却する。其の三日目かにペダン元帥

が呼ばれました。其の時は中將でありましたが、最後の戦線を整理して、殆ど退却もせず、九月末迄持堪へて、其の後は反對に進軍するやうになりました。それが爲元帥は有名になつたのです。戦争前には一大佐であつたが、今日は佛蘭西に於て囑目される元帥になつたのであります。其の人が御案内をして居ります上に、曾ては又陸軍大學の教官をした経験もありますから、説明は手に入つたもので、殿下も一入御興深く思召したのであります。此處で戦死者の墓を訪ねて花を捧げましたが、其の墓は小さな白い十字架が三間置き位にあつて、實に際限のない程澤山あります。是は地方々々で持つて行きますが、名の分らないのは、ヴェルダンの一箇所に忠魂碑を建て、埋葬することになつて居ります。戦死者の多い事は、殿下も御承知であります。目前に墓を御覽になつては、御感じも深かつたこと、思ひます。其の外荒れた所を御覽になりましたが、森の跡の如きは、恰も摺鉢の形の穴がずつと續いて居ります。それは何故かと申しますと、御承知の通り近來は何か一つの物を狙つて、射撃をすると云ふ場

合は少い。例へば二百米突進まうとすると、此方の塹壕から二百米突ばかり先きの所に弾丸の屏風を作る、其處に砲彈を打込み、敵が急に來る事の出來ないやうにして此方が進み、更に二分間も打つと又二百米突進む。斯の如き戦闘の仕方であるから、日露戦争の時に打つた弾丸全部を、僅か一日か二日で打つのであります。又戦線が出たり引込んだりして、向ふが進むと此方が退き、此方が退くと向ふが進むと云ふ風でありましたが、此の如くにして一米突四方に何十發と云ふ弾丸が落ちますから、石でも何でも粉碎されて何も無く、全然灰が敷かれて居る様です。一昨年講和會議に行きました時には、尙更慘憺たる状況でありまして、偶々草があるかと思ふと、眞赤な血の色をして居つた位でした。村の如きも全く破壊されて了つたので、其の村人はどうする事も出來ません。潰れ重つた石を片付け、土臺を直したりするのは時間がかかりますので、新たな所に村を作つて居りますが、それとて如何にも哀れなバラック建て、

が、西洋の油紙を硝子の代用として居るのであります。斯の如き慘狀を御視察になり、又イーゼル河畔の潮水に浸つた所を御覽遊ばし、いたく御感激になりました。殿下御歸朝の日原首相に賜はつた御言葉は、それから出た事と思ふのであります。即ち『大戦の跡を尋ね慘憺たる光景歴々猶存するを目撃し彌々世界平和の切要なるを感じ戦時聯合國民が國難の爲に發揚せる犠牲の精神偉大なるを追想し更に戦後孜々として文明の興隆に努力せる氣象を看取し感興尤深く裨益を獲ること頗る多かりき予は大戦の教訓今猶鮮明なる時機に於て見學の目的を遂げたるを喜ぶ』とありますが、實際正直に申しますと、殿下の御外遊は丁度時機を得て居りましたと思ひます。さればこそ斯う云ふ利益も得られたのであります。又ヴェルダンには銃劔の塹壕と云ふ慘憺たるものがあります。是は一個小隊の兵が其の中で方に突撃の姿勢に移つた刹那、敵彈が落ちた爲め總てが生理になつて了つて、無慘にも其の銃劔の尖頭ばかり一齊に並んで居るのです。今日では其の上にコンクリートの屋根を造つて、柱を立て圍をし鄭重にしてあ

ります。斯くして再び巴里に御歸りになりましたが、偶々此の日は日本 皇后陛下の御誕辰に相當しましたので、殿下は夜供奉員を召して、邦家の爲めに御健康を祝されましたが、吾々は實に其の御孝心篤さに感激致したのであります。其の他尚ランスの御見學もありましたが、其の慘状はヴェルダンと大差はありませぬ。此處には有名なシャンペンの製造所がありまして、溫度を一定する爲特に三四十米突の地下室を作つてありますが、其のトンネルの中には九十九萬九千本入つて居つたと云ふ。併し並外れて深い爲め、遂にそれを破壊する事が出来なかつたと云ふことでもあります。それからキャストラは佛蘭西王朝時代に即位式を擧げた地で、それを憎いとして破壊したのであります。アルベールと云ふ所も御見學遊ばし、又ソムール騎兵學校、サンシールの士官學校等も御視察遊ばしましたが、此處は閑院宮殿下が御在學遊ばした關係もありますので、御感想もあらせられたやうであります。

七月七日遂に巴里を御出發になり、リヨン、マルセーユを経てツーロンに御着、其處にて香取御乗艦、九日にはツーロンを御出發、十一日伊太利ネーブルスに御着になりました。伊太利では 皇帝が特別に元首の禮を以て迎へると云ふ事で、破格の御待遇を御受けになつたのであります。従つて此處では皇太子旗を掲げ、非常に熱心な歡迎であつたのであります。同地では最初の日にかブリと云ふ島にある紺碧の岩と云ふのを御覽になりましたが、入口は大さう狭く、江の島の窟の入口程もありませんので、極く小さい船でなければ入れませぬ。併し中は廣くて水が頗る深いのです。さうして光線が此の狭い入口から屈折し、中に入つて來ますので、優れて美しい色を呈します。其の翌日は羅馬に御出でになりましたが、此處でも熱心に歡迎しました。唯變つた事は、停車場を出まして市役所前の廣場に行きました時に、鹵簿を駐めて市長が歡迎文を讀んだのであります。是は古代外國元首が羅馬に來た時に行ふ式であります。特に 殿下の爲に行はれたのでした。此處に三日御宿泊になりました間、陛下は殿下に對して不一方御親切で、殿下は能く御寢みになられましたか、御疲れになりませ

ぬかと、一日に何十度となく御尋になるのであります。是は御世辭では出来ない事で、深く感謝致しました。羅馬に於きましては、第一に其の誇とする美術館、博物館を御覧になりました。美術館には米原雲海氏作の木刻の像がありました。遠い外國に我が國のものを圖らず見まして、何となく懐かしく感じました。他の一日は古跡を見物し、カラカラの風呂場と云ふのを見ましたが、此のカラカラの浴場は古代にコリゼオと云つたもので、奴隸に喧嘩をさせて見た國技館のやうな場所です。一體羅馬人は殘忍であつたので、或は耶蘇教徒を獅子や虎に喰はして、之を眺める等の事をもしたのであります。而して其の風呂場の廣さはどの位あるかと申しますと、其の土間に水を入れて、其處に何隻も船を浮べて、眞劍に生命の遣り取りをする船戦を奴隸にさせたと云ふ程で、二十萬の觀客が一度に入れると申します。而して風呂には千七百の人が入れると云ふやうな大規模のものであります。昔羅馬人は物を食つては藥を飲み、又食ひさうして湯に入つて、ゴロ／＼して居るのが日課で、遂に潰れたのであります。斯

う云ふ所を御見物になり、現在の伊太利の状況を御覧になると、御感想も深からざるを得ないと思ふのであります。残り二日は羅馬法王の御訪問に過ごされました。是は全く特別なものでありますから申上げますが、カトリックの信者は世界に約三億、それは信仰上思想の統一に於ては世界獨特であります。それ故日本で言ふ事も、亞米利加で説く事も、又歐洲で唱ふる所も皆同じであります。従つて法王は宗教問題上精神界に勢力を有つて居るのみならず、思想界に於ても除外することは出来ませぬ。其の爲め諸外國は大公使を送り、或は關接に連絡を取つて、此の思想界に勢力あり且つ世界に三億の信者を有する法王を中心として、各自のプロバガンダもすれば、世界の大勢を知るのにも利用します。大國の中で法王廳と全く無關係なのは、日本位のものでありませう。それで 殿下も今回歐羅巴に御出でになるに就ては、是非彼所を御訪問になると云ふ譯であります。それで又 殿下は法王から御招待もありましたし、七月十五日に王宮を辭し給ひ、日本大使館に移られてから、改めて法王を御訪問になりま

した。バチカンの宮廷に着きますと、憲兵の一隊と近衛の一隊が儀仗隊になつて、軍樂隊が君ヶ代を奏して居ります。是は外の皇室と同じであります。兵は無論法王廳の兵でありまして、伊太利の政府とは全く無交渉なのであります。宮廷大臣が役員十五六人を連れて、御出迎申上げて居りましたが、儀仗隊とも合せて五六十人の行列が、階段を上つて法王の居室へ行きました。兩 殿下の前後はスイズから來て居る近衛兵が、鋼の兜に鋼の鎧を着し、裁着袴を穿いて居りましたが、それには太い赤と黃の縦縞の筋が入つて居り、さうして長さ十二尺位で、先きに斧のやうな物の附いて居る槍を以て護衛して居ります。其他御迎に來た人々の中には、エリザベツト時代の畫にあるやうな大きなカラーをした人が、絆天のやうなものを着て居るものもあり、それは種々雑多でありまして、吾々の曾祖父位でなければ、逆もあんな物は見られないであらうと云ふやうな形をして居りましたが、其の裡にも古典的な莊嚴さがあつて、供奉員も感心したのであります。三階迄上りますと、式部長官、侍從武官も待つて居り、

其他御出迎に出たもの以外の將校や兵が塔列して敬禮して居りました。法王の居室に着きまして、侍從が戸を開きますと、法王は直に出て 殿下の手を取り、宛も子供でも迎へるやうな態度で兩 殿下と握手し、極く簡単な御挨拶があつた後、殿下から陛下よりの御傳言がありますと、法王も非常に感謝し、尙 陛下の御健康に就て、如何にも心配さうに御尋ねになりましたので、殿下も大さう御満足でありました。それより 殿下は銀製の花瓶を御贈進になり、それに對して法王廳では、特に作つた名高いモザイクの極めて精巧な額を御贈進になりました。而して色々な話の中、現在世界の過激思想、危険思想に反抗しつゝある權威ある團體は、カトリック教だけである。自然秩序を重んずる日本の如き國と提携して行く場合もあるだらうとか、朝鮮に暴動のあつた時に、カトリック教徒は全く關係して居らないが、之を抑へるのに宣教師が苦心した。それに對して齋藤總督も感謝されたといふ事を引用して、カトリック教の教義として國體を壞はすと云ふことは決してさせないから、カトリック教に就ては御

安心なさいと云ふやうな事を話されました。次に法王廳總理大臣を御訪問になりましたが、是も外の國の元首が來た時に、必ず行る例であります。さうして二十分ばかり御會見の後、外交團を御引見になつて、大使公使と御會になり、更に其の近くに御出迎をした五人の日本の神學生に拜謁を賜はりました。同時に聖ペトロと云うて、大きさに於ても美しさに於ても、世界に於て一番勝れて居る聖堂を御覽になりました。其の翌日は法王廳の博物館、美術館を御覽になりましたが、一番御目に止つたのは、伊達政宗が羅馬法王に送つた書面だの、又九州の大名の弟が羅馬に行つた時に、ヴェニスの大統領に送つた書翰なのであります。

斯くて七月十八日にネーブルスを御出港、遂に大成功を以て歐洲御巡遊を終らせられ、御歸朝の途に御就きになりました。御歸朝途中の事は大して申上げる程の事もありませんが、唯エデン御碇泊中に大阪商船會社の暹羅丸が、ソコトラ附近の阿弗利加東岸に坐礁したと云ふ無線電信が來ましたが、殿下の思召を以て鹿島が救援に行き

ました。乗員が短艇に乗つて沖合に待つて居つたのを全部救助しましたが、段々聞きますと、モンスーンの爲め陸岸に吹き付けられて坐礁した。處が翌朝になると、六尺大の土人が武器を以て貨物掠奪に來たので、船員も慄へ上り、ボートで沖合に漂うて居たので、鹿島が救援に行つた時は非常に感謝しました。斯くて一同を古倫母迄連れて來たのであります。艦は更に航海を續け、カムラン灣に寄りましたが、此處は明治三十八年ロジエストウエンスキーが寄港した處であります。殿下も一ヶ月餘の久し振りに始めて御上陸遊ばし、狩獵等も御試になりました。此處は夥しく鳥獸が居りました、自動車走らせながら路傍でも狩獵が出来る位で、羚羊も澤山に居ります。丁度殿下の御供をして自動車で行きましたら、路傍三四間の所に三十貫もある猪が五匹程の仔を連れて居るのを見ました。自動車の運轉手が突然自動車を停めまして、猪が居ると言ふのでしたが、用意がしてないので、大急ぎで直に彈丸を込めて打たうとしたが、其の間に逃げられて了つた事もあります。此處で更に面白いのは夜の狩獵であつ

て、自轉車のランプをヘルメットに付けて、自動車で歩きますと、叢の中其の他に宛も懐中電燈の如きものが二つ光つて居るので、それを狙つて打つのであります。私が試みました時には、叢の中に光つて居るものを見ましたから急いで打つと、それは貂でありました。復た光つて居るので能く見ると鹿でありましたが、是は打ち損じました。八月二十五日カムラン出港、針路を横濱にとり、九月三日殿下には御機嫌益々麗しく、陽光赫々たる太陽の照り映へる海面を靜かに、檣頭高く皇太子旗を掲げつゝ御歸着になつたのであります。

斯の如く到る處で御歓迎を受けさせられ、又非常な御成功で無事に御歸朝遊ばしましたが、御歸朝後も益々御元氣であらせられる事は、吾々は日本の爲めに、諸君と共に衷心より祝福する次第であります。今日は私共六ヶ月の間親しく殿下に御附き申し上げまして、殿下の御成功の數々に就き、又國民として非常に誇とする所の一部分を申し上げますが、此の喜を今日此處に諸君と共に分つ事の出来る機會を得たことを深く

感謝致します。

鶴駕西巡紀要 大尾

大正十一年二月十二日印刷
大正十一年二月十五日發行

非賣品

東京府下豐多摩郡中野町大字中野二七三五

編輯者 藤田定市

東京市神田區美土代町二丁目一番地

印刷者 島連太郎

東京市神田區美土代町二丁目一番地

印刷所 三秀舍

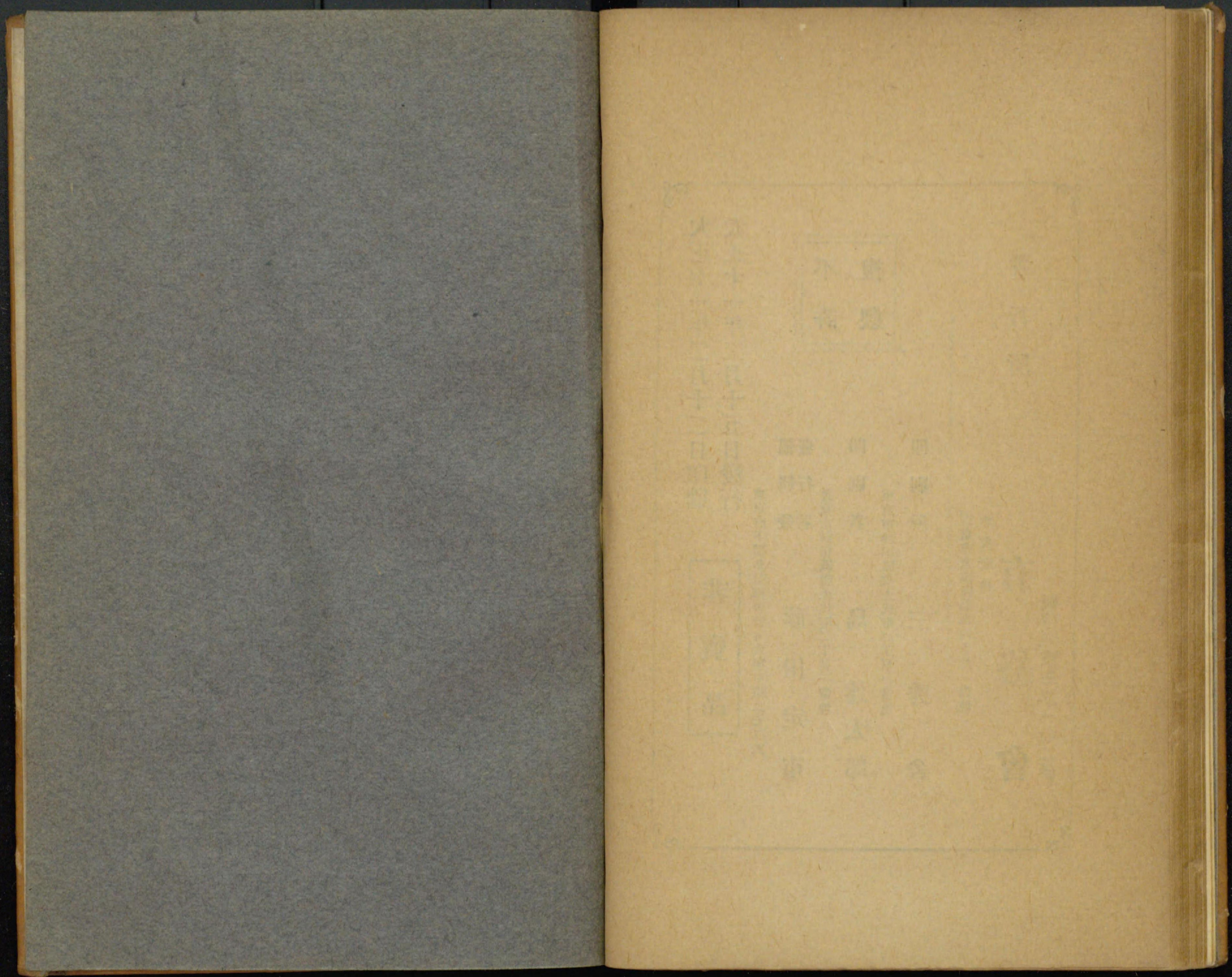
不許
複製

發行所

有終會

東京市京橋區築地四丁目一番地
水交社内

振替東京三四一〇二番



186
353

